

令和7年度 山梨県スポーツ推進審議会 会議録

1 日 時 令和7年10月31日（金） 午前10時00分～午後11時40分

2 場 所 山梨県防災新館 304会議室

3 出席者

(1) 委員 11名

飯田忠子、井出仁、金澤翔一、小山さなえ、佐野夢加、澤田昌宏、辻千恵、中山哲郎、奈良妙子、萩野哲男、吉成純子

(2) 事務局

スポーツ振興課長、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室長、スポーツ振興課総括課長補佐、スポーツ振興課主幹、スポーツ振興課課長補佐3名、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室室長補佐

4 傍聴者等の数

傍聴者 なし

報道機関 なし

5 会議次第

(1) 開 会

(2) スポーツ統括官あいさつ

(3) 会長・副会長の選任

(4) 会長あいさつ

(5) 議 事

(6) 閉 会

6 議事

[報告事項]

① 令和7年度山梨県のスポーツ振興施策について

(1) 山梨県スポーツ推進計画について

(2) スポーツ国際交流事業について

(3) スポーツイベント等開催支援補助金について

(4) 障害者スポーツの推進施策について

(5) 県立やまなしパラスポーツセンターについて

(6) 「ちょいトレ」プロジェクト推進事業について

(7) 甲斐人の一撃について

(8) 本県での国スポ・全障スポの開催準備状況について

(9) わたSHIGA 輝く国スポ・障スポ2025の結果について

② その他

7 議事の概要

(議長)

報告事項の「令和7年度山梨県のスポーツ振興施策」の1から5について、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)

各担当補佐から資料に基づき説明

(議長)

事務局の説明が終わりましたが、内容について、ご意見・ご質問等があればどうぞ。

(委員)

スポーツイベント開催補助金支援補助金について、2件採択されたとあります、申請は任意団体から何件あったのでしょうか。

(事務局)

3件の申請があり、2件採択しました。

(委員)

いい事業ですが、任意団体にあまり知られてないように感じますが、スポーツ団体やスポーツに関わる任意団体の方にどのように周知されているのかお聞かせください。

(議長)

では事務局、お願いします。

(事務局)

県のホームページに掲載したり、SNSに発信しており、紙媒体ではなく電子を中心に周知を行っています。また、スポーツ関係者や市町村を集めた会議などでも活用を呼び掛けております。

(委員)

非常に、活用したいなと思うような興味のある事業なのですが、申請の仕方がちょっと難しいのかなと思う部分もありますが、活用したいなと感じておりますので、参考にさせていただきます。

(事務局)

是非、検討していただき、申請による事業対象となるかどうかなど、ご質問等がありましたら、事務局にお問い合わせください。

(議長)

それでは、どなたかご質問がありますか。

(委員)

スポーツ国際交流事業について、ボッチャが令和4年度に、韓国忠清北道から招聘していただき、障害者のボッチャの方たちと交流を行いました。その次の年、ボーリングの選手が韓国に派遣で何人か行って、交流を交えて親好を深めということもあります、ここに障害者の部門が入ってはいないのはどうしてなのか伺いたい。

(議長)

では事務局、お願いします。

(事務局)

このことにつきましては、忠清北道側とは協議を行っており、令和9年に来ていただき、令和10年に派遣ということで進めているところです。ただ、相手方の意向とかこちらの受け入れ体制とかもあり、確定した内容ではありませんので記載はしておりませんが、予定とすれば協議を進めているということでご理解いただければと思います。

(議長)

ほかに、どなたかご質問がありますか。

(委員)

スポーツ国際交流事業について、スポーツ交流が第一の目的なので、5日間の滞在中、何試合かあると思いますが、スポーツ交流以外の部分、文化的な体験とか、10代の方などで、また山梨に来ていただく再訪率を高めるためにも、韓国で広報宣伝の役割を担っていただくためにも、何か特別なおもてなしをされているのかお伺いしたい。

(議長)

では事務局、お願ひします。

(事務局)

大きな目的としては、スポーツ交流をとおして相互文化の理解を得ていただくということがメインであります。このため、スポーツばかりではなく、委員が述べた文化的な交流ということで、8月に行いました中国四川省との交流では、四方を山々に囲まれた豊かな山梨の自然環境の中で、サイクリングを中心に自然を体感していただくとともに、スポーツばかりではなく、日本の身近な学生たちとの交流をする機会を設けました。また、山梨学院大学に訪問し、今の日本の近代的なトレーニングシステムなどを紹介して交流を深めていただきました。

(議長)

それでは、どなたか、ご質問がありますか。

ほかに質問がないようなので、報告事項の「令和7年度山梨県のスポーツ振興施策」の6から9について、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)

各担当補佐から資料に基づき説明

(議長)

事務局の説明が終わりましたが、内容について、ご意見・ご質問等があればどうぞ。

(委員)

甲斐人の一撃について、2つ質問があります。

1つ目は、病院で診ていますと、小さい頃から同じスポーツをずっとやっていると、故障してしまう子が結構多い。アメリカなど欧米では、小さい頃から1つのスポーツをさせない。冬はラクビー、夏は水泳というふうに1つのスポーツに特化させてはいけないと学会で勧めている。あまり早くからトップアスリートを発掘させて、その競技をやらせると、故障して結局駄目になる子どもが出てきてしまう。この辺のことをどう考えているか。

2つ目は、医師会や私の病院で、スポーツの選手や子ども診ているが、その親御さん、指導者、選手や子ども達に講演して、あまりやりすぎると、障害が起きてしまうということを考えていますが、県として、医師会や病院とかと協力して、そのような機会を設けることができるか伺いたい。

(議長)

貴重な意見であります。では事務局、お願ひします。

(事務局)

まず1つ目ですが、ケガのことにつきまして、小さい頃からやりすぎるとそういうことが起こってくる状況があると思います。各競技団体の指導者に、各年代に合った、無理のないトレーニングをしていきながら、ゆくゆくそのトップアスリートにつなげていくような計画でお願いをしております。

甲斐人の一撃については、まず10競技を経験していただいて、その中から自分だったら

どの種目を選んでいくか、というそういう趣旨で行っています。その中から選んで、その専門競技に進んでからは、しっかりとその年代に合った指導をしていただくよう競技団体と話をしております。

二つ目については、医・科学委員との関わりということで、貴重なご意見ありがとうございます。そちらについては、病院の先生方にも出ていただけたよう、検討していきたいと思います。

(議長)

ほかに、どなたかご質問がありますか。

(委員)

甲斐人の一撃について、質問があります。

令和7年度のファーストステージの応募が39人で、選考結果が20人、セカンドステージは応募が21人に対して、選考結果が14人となっているが、漏れた19人なり、7人は何が問題だったのか。19人漏れても、それなりに合った種目があるのであれば、そこに割り振っていった方が、今後、トップアスリート育成というところにつながっていくのかなと思いますが、19人なり、7人、切った理由を教えてください。

(議長)

では事務局、お願いします。

(事務局)

ファーストステージの19人につきましては、当日参加された人数が34人だったので、14人が選考から漏れたということになります。今現時点では素質・資質のある方を選抜して、つなげていくということになりますので、確かに希望を持って参加していただきましたが、一応県の方で、選ばれたということをそのお子さん達に意識を持つてもらいたいこともありますし、選考させていただいた。ここで漏れたからといってもう終わりかということではなく、いろいろな相談を受けたりしながら競技団体につなげていくこともできると思いますので、その辺を考えていきたいと思っています。

次に、セカンドステージ中学生の21人については、当日、部活動があったため、参加者は14人でしたので、体力測定会に来られた全員を選考させていただいた。本人の希望もありまして、また競技団体が体力測定会に来ており、この選手もちょっと見たいという中学生を、取り入れて報告をさせていただいております。

(議長)

委員、いかがでしょうか。

(委員)

私の願いとして、その14人を拾ってあげることが、多分、未来に向けて、トップアスリートを育成する上では大事なことではないかと思います。小学校5年生の段階だけで判断するのは、ちょっと危険かなと。

(事務局)

今年度から中学生のステージを設けたのも、過去、トライしたけど選考から漏れてしまった子ども達に、改めて中学生になって、また種目を考えたいという人もいるのではないかということもあり、今年度からセカンドステージを設けさせていただいたところであります。

(議長)

この件について意見はないでしょうか。

(委員)

私自身はバレーボールの団体競技をやっております。この甲斐人の一撃は、団体競技も何年か前から加わったと思いますが、個人競技を中心で団体競技はこの種目の中にはないけれども、ここに応募してきた子ども達は、漏れた子ども達も含め、そういうものにチャレンジし

てみたいという希望がある子ども達です。個人情報もありますので、どこまで開示できるかは分からぬけれども、ここの種目にならない競技団体は、こういう取り組みや集まって練習とかを行っていないので、幅広く、他の競技にも、県内にこれだけ意欲がある子ども達がいるよというアピールなど、他の競技団体にも情報を流していただけらしいかなと個人的には思います。

団体競技は、個人の能力だけではなくいろんな要素が関わってくるので、もしかしたら仲間によっては、他の競技に仲間の誘いとかもあって、単独では申し込まないけれども、やってみたら、興味が出てきたかなという発見もあるのではないかと、個人的には思います。

個人情報の取扱が厳しい中で、開示がどこまでできるかは分からぬけれども、その中の例えば身長とか足のサイズとか、バレーボールなどは身長が結構関わってくるので、両親の身長で、その後がどのくらい伸びるか、そういうアプリがあって、そういうものも参考にできればと、個人的には思います。是非、前向きに、開示できるところでいいので、どうかなど、個人的な意見ですけども思いました。

(議長)

ありがとうございました。関連ですが、何かありますか。

(委員)

同じスポーツを続けてきたというところからして、今の甲斐人の一撃は、ターゲットリーダー発掘とか育成のところと関わってきていて、これから山梨で行われる国スポなんかにもつなげていきたい事業ではないかというところが見えていたので、このような形で、続けていただいた中で、令和7年度実施予定の競技種目を見ていても、普段子ども達が触れるこのないような競技がたくさんあり、サッカーや野球とか、バレーやバスケとか、地域で活動があるようなものとは違って、そこに行かないでできなかつたり、環境がないでできない競技が種目の中にある。

これを受ける子ども達は、普段から既に何か違った競技をしながら、こういうのもやってみたいと選択をしてきている子がこれを受けているのではないか。何も競技していないくて、突然、このアスリート発掘に挑戦したいという子はなかなか少ないのでないか、と話の中から感じている。

先程、話にもあったように、小さいうちにたくさんいろんな競技に触れたり、いろんな活動をしていく中で、少しずつ自分の競技を絞っていけるようなことができたらいいなっていうのはあります。週に1回ぐらいの活動で月に3、4回の実施とあり、週に1回ぐらいの習い事もあるので、そのぐらいの頻度で行われているようであれば、楽しいということを前提に、続けてもらえるような活動内容にしてもらえば、その子が中学生になってから、さらに高校生になってもっと技術的に深めていきたいとか、体も大きくなっていく中で、それを選んでもらえたらいいなど、そんな願いを込めて、小学校5年生から広めていき、下準備や普及活動でないけれど、こういう種目もあるよっていうような形でやっていったらいいのかなと思いました。

私もやり過ぎはよくないと、本当によく分かっているので、保護者の方にもよくその辺は重々承知の上で、将来的にその子がいい形で競技に携われるような基盤を作つてもらえたならと思います。

(議長)

ありがとうございました。事務局お願ひします。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。

先程ご意見がありました他種目の競技団体の紹介等については、指摘がありましたとおり個人情報がネックになっているところであります。どこまで法に沿って各競技団体と共有ができるのかということは、今、回答はできませんが、検討課題とさせていただければと思います。

次に甲斐人の一撃についての意見ですが、競技につきましては競技団体等と話をする中で、参加したいという競技団体を中心にピックアップしているところであります。また、スポーツによる故障については、スポーツのやり過ぎは確かに良くありません。会議ではな

くイベントで、甲斐人の一撃とは別に高校生を対象にした栄養講座等を県スポーツ協会と連携するなどして開いております。

複数の競技に興味を持っていただいて将来的に自分がどういうふうに進めばいいのか、1つの選択肢になればというのが、大きな狙いであります。今後とも、甲斐人の一撃を中心には子ども達の限りない可能性を開花させていきたいと考えておりますので委員の方々のご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

(議長)

ありがとうございました。

報告事項の②その他として事務局からなにかありますか。

(事務局)

その他の報告事項はありません。

(議長)

今日せっかく委員の皆さん、お集まりですのあと少しお時間ありますので、何か、ご意見はありますか。

(委員)

資料の24ページの第86回国スポ・第31回障スポ開催基本方針の実施目標ですが、壮大な国スポへの取り組みを進めようと言っていますが、全序的な体制での推進ということがどうも見えていないと思っています。例えばスポーツの力を生かした県民の豊かさと言ったときに、スポーツ部門だけで果たしてこれが担えるのか。次世代につながるスポーツの振興と言ったときに、スポーツに関わる部門だけでこれが実現できるのか。共生社会の実現もそうだと思います。

そういうものをスポーツ部門だけで取り組んでいるという実情を考えますと、果たして県庁全体で、県全体でどう進めていくのかというビジョンがなかなか築けていくにくい状況なのかなと思いますので、県全体の力をここにありますオール山梨で集合知を発揮となっておりますけど、そういう取り組みを、是非今後、検討して進めていただけるとありがたいと思います。

もう1つ、40年前のかいじ国体を思い起こしていただければ、それまで私の今管理をしている小瀬スポーツ公園みたいなものはなく、山梨県にあれだけの大きな全国大会・国際大会の誘致できるような施設ができあがりました。スポーツ協会というのはまさにその申し子のようなもので、その施設を使って、その施設を管理しており、前回の国体でそれが残ったということです。

今回の国スポでは、何が残るのだろうか。2050年の、21世紀の中央まで見定めたスポーツはどうなっていくのかということを考えますと、まさにかいじ国体などからの40年はスポーツを展開して、今日も委員でおいでになっているようなオリンピアンが輩出され、またレスリングの文田選手のようなゴールドメダリストまで山梨県で生まれていった。そう考えますと、かいじ国体の遺産といいますかレガシーはものすごく大きなものがあって、それまで、私も子どもの頃は、山梨県出身のオリンピアンって果たして何人おいでになったのだろうと考えます。もう格段の隔世の感があるわけです。

今後の50年といいますか、21世紀の真ん中ぐらいを目指して、山梨県のスポーツがどうなっていくのかということをイメージしていくと、次の国スポで、アスリートセンターということを言われておりますが、どこまで競技力を高めていく、どうしても国スポですから競技力の向上が一番の中心になってくると思います。それを、是非これから、今後、こういったものをを目指していくんだというようなものを、県民の皆さんにもお示しいただき、また私ども競技者にも競技団体にもお示しいただいて、7年後、是非成功させ実り多いものにできればなと思っております。

答えは結構ですので、今後の取り組みとして、そういうことを是非進めていただきたいということで、ご記憶にとどめていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(議長)

ご意見ありがとうございます。ほかに、どなたかご意見がありますか。

(委員)

私の方からは、その他ということで、総合型地域スポーツクラブに関する環境について、皆さんにちょっと知りていただきたいとともに、質問があります。

総合型地域スポーツクラブについては、スポーツ推進計画にも単語としてはかなり散見されまして、30ページ、31ページを中心に地域のスポーツに触れ合う機会の創出であり、実際に皆さんの中でも、例えば市町村であるとか、或いは甲府市でどういう団体がまず具体的に、総合型地域スポーツクラブであるかご存じでしょうか。

甲府市には、U Sports Club 山梨、ヴァンフォーレスポーツクラブ、私がやっているバスケットボールスターズの3つがありますが、多分あまり知られておらず、それらが総合型地域スポーツクラブとして活動しているのはあまり知られてないと思います。

今後、中学校の部活の地域移行であったり、或いは、様々な社会課題に対してスポーツに触れ合う機会の創出を作るというところでは、総合型が果たす役割というのは大きいと思いますが、現状、事務局もかなり高齢化が進んだりしていて、総合型がうまく機能しない現状がありまして、その辺に関して、私たちは非常に危機感を持っています。

質問として、県としては、どのように総合型地域スポーツクラブに対して支援をしていただけなのか、或いは、地域社会においてはどのように我々がスポーツの機会を創出できるかという、どういうふうに期待されるかということをお聞きしたい。

(議長)

では事務局お願いします。

(事務局)

県は、総合型スポーツクラブについて、県内27市町村のすべてを訪問しております。スポーツクラブも交え、いろいろな意見を吸収して、市町村に橋渡しをしております。総合型スポーツクラブには、アシスタントマネージャーもしくはその上のクラブマネージャーの資格を持っていた方が在籍していると、totoとかの補助も受けやすいと認識しております。アシスタントマネージャーを目指しその資格を取るための講座を開催しております。

また、各種教室を市町村が考えている場合は、地域の総合型スポーツクラブと連携して開催していただけるようにと依頼しております。県は指導できず、助言しかできないので、助言という形でサポートしているのが実情であります。

施設についても、休止をしているクラブもあるので、日本スポーツ協会が推奨しているP D C Aサイクルを活用していただきながら、クラブのどこにどういう改善が必要なのかということを助言しております。

広域スポーツセンターを県スポーツ協会に設置しており、そこに1人職員がおりまして、隨時相談体制ができるような体制になっておりますので、是非そういったことを活用していただきながら、生涯スポーツの推進にご協力いただければと思います。

(事務局)

何か、ご意見はありますか。

(委員)

私も先程の委員の意見に、本当に賛同させていただきます。

話は戻りますが、全体的な流れで、意見を述べさせていただきます。まず、資料1の山梨県スポーツ推進計画についてですが、こちらは令和6年から令和8年度の3年間で、また来年で終わって、次という形の計画が示されるのであろうと思いますが、9月だったかと思いますが、スポーツ基本法が改正されました。内容は、多分スポーツの価値の再定義であったりとか、スポーツとまちづくりの一体化であったりとか、そういうような文言が新しく改正された内容かと思います。そこでまた、令和8年度が終わって令和9年度からの新しい計画ではその辺のところを踏まえた、新しい山梨のスポーツ推進というかたちで進めていっていただきたいと考えております。

それが24ページの第86回の国民スポーツ大会につながってくるかなとは思いますが、先程の意見のように、本当にこれ、オール山梨で取り組んでいけるのかというところが、私もちょっと疑問に思いました。かいじ国体が、約40年前に開催され、そのレガシーが今、

小瀬スポーツ公園などとして残っていると思います。また、ここから新しい山梨がスタートしていくって欲しいと感じていますが、これを見ると、将来に多大な負担を残さないように大会運営の大胆な簡素効率化を進めるということで、そういうレガシーが果たして残していくのであろうかとちょっと疑問があります。

具体的な取り組みのところにも、多額な費用を要し選手の負担になる式典の簡素化の検討であったり、財政面での多大な負担が生じる施設設備は、既存施設を原則活用と書いてありますが、今いろいろ会場の選定においても非常にご苦労を事務局の方ではされていると思います。いろいろな施設が老朽化しているという話を聞いております。全部建て替えると本当に莫大なお金が掛かると思いますが、多少の補助金は、国スポで取れのではないかと思うですが、そういう補助金なんかを活用して、新しいこのオール山梨で国スポに向かって取り組みをしていっていただきたいと思います。

私も以前、栃木の国スポの時は関わらさせていただいて、栃木もオール栃木ということで、非常に素晴らしい施設をかなり造った。人口規模も、山梨は栃木とは違うので、そこまで、財政面的にどうかということは重々承知していますが、せめて何か象徴になるような、山梨で新しく国スポの2回目を開催したという何かレガシーを1つは残して欲しいなと感じました。これは私たちの意見ですので、以上になります。

(議長)

ご意見ありがとうございます。事務局、お願ひします。

(事務局)

国スポの準備に関しては、やはり後世に多大な負担を掛けることもありますので、できるだけ大規模な整備や修繕がないようにということで会場設定を進めているところであります。

レガシーとして残るようなものについては、今後検討していくわけですが、できるだけ建物をハードとして残すことではなく、例えば、今回、会場が決定されて、そこでお子さんが競技に興味を持っていただいて、県に定着して育っていく。そういうこともレガシーとして残るものではないかと思います。それにつきましても大会は7年後にございますので、検討していきたいと考えております。

(事務局)

全員からご意見をお願いします。

(委員)

この審議会に出席する度に、コロナ禍を超えて、生徒も徐々に変わりつつある。甲府商業においてコロナ禍が終わったところで、ソングリーダーのポンポンというダンスに関わっており、素人を集めてやっています。でも一生懸命努力すれば、今回、全国大会では2位になり、アメリカ行きの権限を得ました。でも、昨日保護者会を開いて、子ども達は行きたい、でも保護者はどうかって考えたときには、本当に苦しい練習をしてきて、ご褒美のようにアメリカ大会行けるよって言ったときに、やはりお金が掛かる。今、ものすごく高いです。このスポーツをやっていくためには、非常にお金が掛かる。

高校の部活動を見ても、どんどんどんどん少なくなっている傾向です。やはり何かなっていうと、お家にお金がない。経済的に大変だ、クラブに入るとお金が掛かるということで、非常に経済的なことが、国スポもそうですけれども、非常に関わっているのではないかと思っています。

新体操に関わっていたのでフェアリージャパンオリンピック強化選手に、やはりアスリートを持っていくためには、甲斐人の一撃のような、各県からやはり柔軟性とかいろんな要素が、スタイルも関わってきますので、おじいちゃんおばあちゃんまで、スタイルも決めて、報告して、山梨県から代表ですよ、関東から代表ですよ、今度はジャパンに入るまで、ずっと強化をして、やっと徐々に芽が出てきて、新体操はこの間ブラジル大会で優勝しました。甲斐人の一撃も、多分どんどんどんどん進化していく、いろんなことを積んでいくて方法を変えて、それが山梨県のトップアスリートにつながればいいなど、大変いい計画だと思っています。会議資料を読みましたが、本当に丁寧に説明もよく分かりやすくて、本当にこの計画どおりに進むと、大変いいなと思っています。

この間、大國小の中心のお祭りにソングリーダーが参加しました。ダンスをみんなで踊りましたが、子ども達はやっぱり動くことが大好きです。他の委員も言っておりましたが、やはり楽しいから、じゃあこれをやってみようという子どもがもっと増えるといいなと、甲斐人の一撃は小学校4年生5年生からですけれども、幼稚園でも、どんどんどんどんいろいろなことをやっているところもあります。

機会を与えるということは非常に重要ではないかと思います。こんなにダンスを楽しんでくれるんだという思いがあつて、もっともっといろんな競技を知って、オリンピックアスリートが来て話をしてくれるとか、一緒に動いてくれるっていうのは、子ども達が非常に嬉しいのではないかなと思っています。なので、もっともっと低年層が楽しむ、こんなスポーツがあるんだということを計画していただけすると、もっとありがたいと思っています。

(議長)

ご意見ありがとうございました。ほかに何か、ご意見はありますか。

(委員)

国スポの準備状況についてありますが、先程、他の委員からも出ました。

やはり競技施設の老朽化がかなり深刻ではないかと思っておりまして、特に水泳が小瀬のプールを使うのではないかと思っており、毎年毎年何かどこかが壊れているとか、そういう話をよく聞きます。計画の中にもう後世に向けて負担を残さないというのがありますが、ただ現段階で大会を運営するだけの間においても、負担になっている。それは日差しが強いとか、水温が高過ぎるとか、あとは、選手の控え場所に屋根がないので日差しに晒された状態で待機しなければならない状況があります。

1ヶ月か2ヶ月ぐらい前だったと思うが、鈴木聰美さんがXで山梨に室内プールを造って欲しいというようなことを発信されて、そのメリットデメリットを教えて欲しいみたいなツイートをされていた。鈴木聰美さんは別に山梨学院大学出身ですが、山梨県の出身者ではない。国スポも福岡の代表で確か出でていたと思いますが、やはり県外の人ですらそういうふうに感じている。

もっと言うと、全国から人を呼んで大会をするということを考えていったときに、既存の施設でやるというのは、ちょっと今の時代にそぐわないのではないかかなと思います。これは個人としての要望ですけど、やはり、小瀬のプールを何かしらの形で改修していくということが必要ではないでしょうか。

(議長)

ありがとうございました。施設の話も出ました。

こうして情熱のある委員の皆さんのご意見をいただいて、事務局の皆さん本当にきめ細かい戦略から始まって、これから国、そして県、そして市町村、こうしたところが一丸となって、子ども達の育成、育ち育むこと、また、これらを委員さんたちにも期待をいたします。

今日は貴重なご意見をいただいて、胸の詰まるご意見もありました。どうか、安全安心にスポーツができるこの環境を、我々委員がどんどんどんどん意見を出していただいて、それが県につながれば、これが一番有効ではないかと議長として感じております。

今日は本当に貴重なご意見ありがとうございました。これをもちまして、終わりにさせていただきます。

それでは進行を事務局にお渡しいたします。

(事務局)

議事の進行ありがとうございました。

委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただき、また、貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございました。本日、皆様からいただきましたご意見を今後の本県のスポーツ振興施策に反映させて参りたいと思います。

それでは以上をもちまして、令和7年度山梨県スポーツ推進審議会を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。

(以上)